

平成29年度事業報告

1 事業の概要

平成29年度、阪神福祉事業団は①良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進、②将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立、③安定的経営の取り組み、④施設整備等の推進、⑤人材確保、育成への取り組み、⑥地域貢献に向けた取り組みを重点的課題として取り組んだ。

(1) 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

施設等の福祉サービスについて、第三者評価機関による客観的な評価に基づきサービスの向上を図るため、平成29年度は、ななくさ学園、ななくさ育成園が福祉サービス第三者評価を受審した。

今回の受審により事業団の全施設が第三者評価を受審したが、準備過程において多くの職員が自己点検に関わったことにより、明確となった課題や改善点に対して職員間で情報を共有し、自らのサービス等を見直す契機となった。全施設の評価結果については、A評価が72.7%と概ね良好であったが、特にマニュアルの整備や記録の徹底、計画の利用者、家族、職員への周知徹底に課題が見られた。

平成30年度より2巡目の審査を受ける予定であるが、再度の評価により改善内容の点検やサービスの質の向上を検証し、更なるサービスの向上を図っていくこととする。

また、個別化、多様化する利用者に対して個別・専門的支援を推進し、その内容については各施設における1年間の実践をまとめ発表する「阪神福祉事業団実務・実践報告会」において6編の報告・発表があり、施設間で実践を共有する契機となるとともに、発表をした若手職員の成長にも繋がった。

(2) 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

児童福祉法の改正に伴い、障害児入所施設については①児童施設として維持、②障害者支援施設に転換、③児者併設施設に転換の三つの新体系のいずれかに平成32年度末までに移行することが義務付けられている。ななくさ学園では、18歳を超えても入所を継続している年齢超過児が在籍していることも踏まえ、6市1町地域の障がい児及び障がい者の福祉ニーズや将来的な経営見通し等を検討する中で、平成30年4月1日から障害児入所施設（定員40人）併設障害者支援施設（定員10人）に移行することを第116回理事会で決定した。理事会決定後、利用者の保護者・家族への説明、障害者支援施設での作業・療育等の日中活動の検討、行政手続き等を進め、予定通り平成30年4月1日に新体系（児者併設施設）に移行した。

(3) 安定的経営の取り組み

法人、施設経営においては、各施設の独立採算運営を基本とし、各施設が将来にわたって、設備更新等の利用者の生活環境改善や職員の処遇改善を主体的に実施し、自立した経営を推進できるよう、稼働率の維持向上、各種加算の取得など収入の確保に努めた。その結果、処遇改善加算率の増や措置費の増額改定等もあり、平成28年度決算と比較して約

66,000千円の増収となり、職員の処遇改善手当、主任手当等の改善に充当するとともに、育成園、厚生院の移転改築整備工事や施設の大規模改修等のために積極的な積み立てを実施した。また、学園・清光園の都市ガス契約の見直し、事業団全施設で使用する電力調達の見積もり合わせにより、予算比較で約9,000千円の削減が見込まれる等、効率的な執行や入札、見積もり合わせの徹底に努めた。

(4) 施設整備等の推進

ななくさ育成園移転改築整備事業に関しては、平成29年3月に育成園・厚生院の移転改築用地として、宝塚市東洋町に10,000.05㎡の施設建設用地を宝塚市から取得するとともに、実施設計、建築確認、地元説明も終え、国県補助金の内示後、平成29年度工事着手の予定で諸準備を進めた。その中で、国の平成29年度当初予算では補助金が不採択となり、理事会で工事の1年延期を決定したが、国の平成29年度補正予算で補助金が採択されたことから、平成30年6月入札・契約、平成31年9月完成の予定で準備を進めている。

その他の整備事業については、ななくさ清光園空調設備改修工事について、平成29年8月3日に制限付き一般競争入札により入札を行い、理事会の承認を得て契約、平成29年11月30日に完成した。また、ななくさ白寿荘デイサービスセンター及びつどい棟（一般介護棟）食堂の空調設備の改修工事を実施した。

(5) 人材確保、育成への取り組み

マンパワーの不足は全産業に及んでおり、とりわけ福祉・介護分野での人材不足は深刻な問題となっている中、阪神福祉事業団では、ますます厳しくなる職員確保等の諸情勢を勘案し、福祉国家資格の取得奨励、キャリアアップサポートを積極的に推進することにより職員のモチベーションアップに取り組み人材の定着を図った。

また、就職ナビサイトや就職説明会において、福祉系学生のみならず他学部学生等へのアプローチを行うとともに、福祉系大学等のキャリア担当者への訪問や学内就職説明会、ゼミ訪問等積極的な採用活動を展開した。その結果、平成29年度は年間を通じて56人の学生が施設見学会に参加、採用試験応募者は36人となり、採用辞退があったものの平成30年4月1日付けで16人の新規職員を採用した。これらにより平成30年度当初においては、予算定数通りの正規職員を確保することができた。また、採用後2～3年目の若手職員を中心とした「事業団の魅力発信チーム」を結成し、若者目線で職員採用に関する企画・広報活動を展開することで、求職学生のみならず、大学2、3年生など将来の福祉人材も含めて施設見学やインターンシップへと繋げた。

(6) 地域貢献に向けた取り組み

ななくさ白寿荘では10月に4回目となる「ななくさ地域交流フェスタ」を開催し、ゲスト講演、事業団職員による認知症サポーター養成講座や生活支援技術講習会を実施するなど、地域の方を中心に140人の参加を頂いた。また自治会等と連携して、各地域で認知症サポーター養成講座の開催や認知症徘徊老人声掛け訓練の開催など、地域福祉の向上に積極的に貢献した。

ななくさ育成園では、知的障がい者の支援をテーマに宝塚市で公開講座を開催し、福祉関係者、保護者等66人が参加する中で学習や情報交換を行った。

また、ななくさ学園では毎年、障害児等療育支援事業の一環として自閉症・発達障がい連続講座や障害児を持つ保護者向け講座「ペアレンツクラブ」を開催し、地域の障がい児支援の関係者、家族等が発達障害に関する学習や情報交換を行った。

その他に、兵庫県のトライやる・ウィークに協力し、西宮市立山口中学校の生徒8人を受け入れ、福祉の職場を体験して頂いた。また、地域広報誌ななくさ通信を近隣地域に配布し、阪神福祉事業団や福祉に関する住民理解の促進を図った。

(7) その他

障がい者雇用の取り組み

地域で暮らす障がい者の就労による社会参加を積極的にサポートするため、平成29年度は6人の職業実習を受け入れた。実習においては、企業在籍型職場適応援助者を中心にアセスメント・評価を行い、また、地域の就労生活支援機関とも密に協力体制を構築する中で、新たに4人の障がい者を雇用するとともに、1人はトライアル雇用を継続し、正式な雇用に向けて取り組んでいる。これらの取り組みにより、本事業団の障がい者雇用は平成30年4月1日現在8人、障がい者雇用率は2.6%となり、事業者等に法で義務付けられている法定雇用率2.2%を超えることとなった。今後も共生社会の推進を担う社会福祉法人の使命を果たすべく、障がいのある方が就労体験等にチャレンジできる機会を提供していくとともに、適切な職業生活の支援に努めていく。

2 各施設事業報告

各施設の主な事業について、次の通り実施した。

(1) ななくさ学園（障害児入所施設、平成30年度より障害者支援施設を併設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

(7) 障害児等療育支援事業の実施（継続）

在宅の障がい児を対象とした「障害児等療育支援事業」の一環として、今年度新たに西宮市から重度訪問介護のアセスメントを受託し実施した。また、地域の障がい者作業所、放課後等デイサービス、中学校、特別支援学校等での障がい児の療育指導について継続して推進した他、夏休み中の障がい児等の生活を支援するサマースクール及び冬休みのウィンタースクールについても多数の参加があった。また恒例となった「発達障がい連続講座」（3回シリーズ、参加者延べ140人）を開催するとともに、保護者向け講座「ペアレンツクラブ」（4回シリーズ、参加者延べ120人）を開催し、阪神間等における自閉症支援者、家族のスキルアップや地域で障がい児の生活を支えるための関係機関のネットワーク作りに努めた。

(4) 福祉サービス第三者評価の受審（新規）

第三者機関の評価を受審することによって、これまでの取り組みによる達成度の確認ができた。今回明確になった運営体制、支援等の課題を整理し、今後の施設運営に反映させていくこととする。

イ 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

学園の方向性の決定及び移行に向けての準備（継続）

障害児入所施設の新体系移行に向けて、兵庫県障害者支援課と県内7施設（神戸市を除く。）との協議（2回）等を活用して県内全施設での情報交換を定期的を実施した。また先行移行施設への見学や現任訓練を実施し、移行後の実態把握に努めつつ、法人・施設内で検討の結果、利用者ニーズや将来的な経営課題を踏まえ、平成30年度より障害児入所施設（定員40人）併設障害者支援施設（定員10人）への移行を理事会において決定した。

ウ 施設整備等の推進

入所ニーズに応じた環境の整備（新規）

変動する男女別の入所依頼数に対応するため、新たに男女フロアの仕切り扉を設置し適正な居室配置を実現した。

(2) ななくさ厚生院（救護施設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

福祉サービス第三者評価の受審を踏まえたサービス向上への取り組み（継続）

「利用者支援」「人材育成」「地域貢献」「収入確保」の4部門毎に現状を分析し、移転を見据えた計画的な事業管理や組織管理、財務管理のあり方を示し、経営基盤を強化するため中期経営計画（平成29年度から34年度）を策定し、計画的な事業運営を推進した。

イ 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

積極的な地域移行支援の推進（継続）

地域生活での自立と社会参加促進を目的とした居宅生活訓練事業等を通じて、平成29年度は27人の退所者の内、12人が地域生活に移行することができた。地域移行にあたっては、本人の持つストレングス（強みを活かす）の視点から、様々な社会資源を活用しながら地域に定着できるよう支援を行った。

ウ 安定的経営の取り組み

通所事業の充実（拡充）

積極的な地域移行の推進により、退所した利用者の通所事業の利用が増加し、厚生院を退所し通所により訓練を受ける利用者は約6人/月平均、居宅への訪問指導を受ける利用者は約10人/月平均となった。作業意欲のある通所者は、作業班の主軸となるよう指導を行い、また、通所が滞りがちな利用者に関しても、個々に応じた方法で通所を促した。訪問指導においては、地域での生活の安定のため、住居内の状態や飲酒等で生活に乱れが生じていないか、また、通院状況等の観察・指導に努めた。

(3) ななくさ育成園（障害者支援施設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

福祉サービス第三者評価の受審（新規）

利用者サービスの向上を図るため、福祉サービス第三者評価を受審した。評価結果のみならず、準備過程に多くの職員が関わる中で、日頃の支援の振り返りや気付きがあり、提供しているサービスを見直し、再構築する機会となった。

イ 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

移転改築工事の着工（拡充）

当初予定していた平成29年度当初予算の国・県補助金が不採択になったことにより、着工が延期となったが、当該年度の補正予算での補助金採択を受け、入札に向けた準備等具体的な作業を進めた。移転後の運営体制等について作業部会を中心に検討し、円滑な移転に向けた準備を行った。

ウ 安定的経営の取り組み

安定的経営管理の確立（継続）

移転改築に必要な自己財源を確保するため、常に収支状況を把握・分析し、円滑に移転を実現できるように経営管理を行った。各種加算等の継続した取得に努め、予算を上回る収入となった。また、移転年度及び移転後の収支シュミレーションを行い、移転後の安定的経営についての検討を行った。

エ 施設整備等の推進

車両の購入（新規）

利用者の高齢化に伴い通院機会が増加しているため、新規に車椅子対応の車両（軽自動車）を購入し、利用者の通院や外出等において円滑な対応が可能となった。

オ 地域貢献に向けた取り組み

公開講座の実施（拡充）

地域住民への啓発活動として、移転予定地である宝塚市において「第2回公開講座」（宝塚市後援）を実施し、総勢66人の参加があった。

(4) ななくさ白寿荘（特別養護老人ホーム）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

認知症利用者への専門的支援の充実（拡充）

高い専門性のある施設づくりを目指し、外部講師によるバリデーション研修を白寿荘全職員に向けて本格的に開始した。また、バリデーションワーカーの育成にも努め、各フロアに1人ずつ、合計3人配置できるように準備を進めている。また、新たにバリデーション認定施設に向けての取り組みも開始した。さらに認知症実践者研修に参加（実践者研修4人、認知症実践者リーダー研修2人）し、職員のスキルアップを図った。

イ 安定的経営の取り組み

稼働率の維持と各種加算の取得（拡充）

平成27年度の報酬改定以後、全国の特養の3割以上が赤字という状況の中で、白寿荘においては毎月、管理職・相談員・ケアマネジャー・事務担当者による経営改善検討会を開催し、制度改正対応に加え収支改善に向けて稼働率や平均介護度の見直し等種々の検討を行い、いぶき棟大規模改修工事に向けて計画的な積立を行った。稼働率に関しては、月平均10%前後の入院者があり、安定した稼働率の維持が困難であったが、ショートステイの稼働率を上げることで全体的な稼働率向上に努めた。また、新たに認知症専門ケア加算の取得に向けて、計画的な専門研修の受講に努めた。

ウ 施設整備等の推進

デイサービスセンター他の空調設備の更新（新規）

老朽化の著しいデイサービスセンター他の空調設備の更新を行い、利用者の生活環境の改善を図った。また、老朽化した「いぶき棟」の大規模改修を見据え、基本構想の検

討を開始した。

エ 地域貢献に向けた取り組み

施設機能の提供（拡充）

地域における福祉の拠点としての役割を發揮していくことを目的に、地域の自治会や各関係機関とのネットワークづくりに努めた。また、自治会や行政などの各関係機関との協働作業の中で、認知症高齢者やその家族が安心して暮らせるための社会の実現に向けた組織づくり（認知症カフェ開設へのアプローチ・認知症徘徊老人声掛け訓練の実施等）にも努めた。認知症カフェの開設については、新興住宅地のほか、上山口などの旧エリアの住民からも有志を募ることができ、平成30年度初夏のオープンに向けて社会福祉協議会等の関係機関や地域住民との協働で取り組みを進めていく。

(5) ななくさ新生園（障害者支援施設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

(7) 障害児等療育支援事業の充実（拡充）

西宮市北部地域の療育支援の充実のため、西宮市地域自立支援協議会の「ほくぶ会」と連携して、障がい者スポーツのポッチャの活動やペアレントトレーニングなど年間延べ349件実施し、障がいのある方やその家族にスポーツを楽しむ機会や学びの場を提供することができた。今後も相談支援事業と連携して、地域のニーズに応じていく。

(4) 福祉サービス第三者評価結果に基づく施設管理、支援内容等の見直しの推進（継続）

施設におけるリスクマネジメントが課題として挙がっていたことから、平成29年度はリスクマネジメント推進プロジェクトを設置し、随時、事故防止委員会を開催した。事故後の対応を検討するとともに、その後、検証を行い、事故の再発防止に努めた。また、事故の抑制や未然に防止することを目的にヒヤリハット活動を実施した。

イ 安定的経営の取り組み

指定特定及び指定一般相談事業所の機能の充実（継続）

指定特定相談部門（計画相談支援）に関しては、西宮市北部地域のサービス等利用計画作成のニーズに応える事で事業の推進を図った。初回計画の作成は平成28年度末にほぼ作成を終了し、今年度はモニタリング及び更新計画の作成が中心となった。今後は、「ほくぶ会」と連携を図り、西宮市北部地域の指定特定相談事業所の中心的役割を担い、地域における計画相談の充実を目指し取り組みを進めて行く。

指定一般相談部門（地域移行相談支援）に関しては、救護施設（ななくさ厚生院）や精神科病院（有馬病院・有馬高原病院等）と積極的に連携を図ることで、関係機関とのネットワーク作りに努めた。平成29年度は5事例に取り組み、実際に地域移行したケースが1件あり、今後も継続することで地域移行の推進を図っていく。

ウ 人材確保、育成への取り組み

派遣研修を通じた職員のスキルアップの推進（継続）

人材確保に関しては、阪神福祉事業団障がい者雇用推進委員会と連携を図り、特別支援学校の職場実習を積極的に受け入れた。人材育成に関しては、外部研修に職員を派遣し計画的な伝達研修の実施を行った。また、個別面談等で研修に関する情報を提供しス

キルアップを図った。

(6) ななくさ清光園（障害者支援施設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

より良い意思決定支援に関する調査・研究（新規）

障がい者の意思決定支援に係る研修会3回に、延べ6人の職員が受講し、職員会で伝達研修を行い、どんなに重い障がいがある人も意思があり、それを尊重すべきこと、本人にとってより良い意思決定のためには経験や情報が必要なこと、本人の最善の利益を優先することを支援者は常に意識する必要があることなどを学んだ。

イ 安定的経営の取り組み

収入の維持、拡大に対する取り組み（継続）

各種加算の取得の可能性を調査するとともに、現在取得している重度加算について加算要件を満たせるよう毎月支援体制等を把握し、また支援区分更新対象者等の状況把握に努め、必要に応じて支援区分変更の手続きを行った。

ウ 施設整備等の推進

空調設備等の更新（新規）

老朽化し、故障が多発していた空調設備の更新工事を実施し、また、経年劣化した公用車（軽自動車）、食器洗浄機及びガス立体炊飯器を更新した。

エ 人材確保、育成への取り組み

強度行動障がいをもつ利用者に対する支援者の育成（継続）

強度行動障害支援者養成研修を4人が新たに受講し、これまで基礎研修修了者8人、実践研修修了者4人となり、受講職員が中心となって行動障がいのある方の支援を専門的に実践し、その人らしい生活が送れるよう支援を進めることができた。

(7) 阪神福祉センター診療所

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

(7) 健康管理の充実（継続）

利用者の加齢化に伴い、嚥下障害や骨粗鬆症など日常生活のリスクが増加傾向にあることから、定期健康診断の結果を活用し、再検査も含め、疾病予防、早期発見、早期治療に努めた。

(イ) 他職種協働によるチームケアの推進（継続）

施設看護師、栄養士、支援員も含めたケースカンファレンスや医療相談により、治療方針等を相互理解することでチームケアを推進し、医療的ケアの向上に努めた。

(ロ) 学園、清光園利用者の歯科ケア充実の検討（新規）

学園、清光園の利用者に対し歯科衛生実地指導の実施を検討し、歯科衛生士の雇用等体制が整った11月から当該施設でのスクーリングや歯磨き指導を開始し、利用者の歯科衛生の増進を図った。

イ 安定的経営の取り組み

(7) 後発医薬品使用体制加算の継続取得（継続）

後発医薬品使用体制加算を継続して取得する体制を整えた結果、平成29年度のジェネリック薬品使用率の年間平均は約85%となり、加算の継続取得と利用者の負担

軽減及び医療費の効率化に繋げた。

(イ) 近隣施設及び一般外来患者の積極的な受け入れ（継続）

診療所紹介パンフレットを独自に作成し、施設行事や相談支援事業を通じて関係者に配布するなど地域住民等へのアピールに努めた。内科、精神科、歯科の全科で延べ1,403人の一般外来患者の受診があった。また、歯科では近隣6福祉施設の利用者の診察を受け入れた。

ウ 施設整備等の推進

医療用検査機器の購入（新規）

超音波による残尿測定ができる膀胱内尿量測定装置を購入し、カテーテルの挿入による感染症のリスクや利用者の負担の軽減を図った。

(8) 給食センター

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

利用者実習の受け入れ及び障がい者雇用への取り組み（拡充）

利用者の地域移行や社会復帰へ向けての訓練場所として施設と連携しながら厨房実習を実施した。新たに4人の厚生院利用者を迎え入れ、実習を通して食品衛生の理解や厨房業務の習得を支援した。また、地域で暮らす障がい者の職場実習も積極的に受け入れ、現在2人の障がい者を雇用するとともに1人がトライアル雇用を継続している。

イ 施設整備等の推進

調理機器の購入（新規）

利用者の高齢化により大量に食事の刻み加工処理等が必要となったことから大容量のフードプロセッサーを購入することで、加工作業にかかる負担を軽減した。

ウ 人材確保、育成への取り組み

職員の育成及び専門性の向上（継続）

職員の資質向上を図るため、センター研修はもとより、栄養管理や衛生管理に関する専門研修に参加し、栄養ケアマネジメント技術の向上、安全な食事提供に向けた人材育成を実施した。

エ 地域貢献に向けた取り組み

施設と連携した地域貢献（継続）

白寿荘が主催する地域交流フェスタにおいて、「身体に良いデザート」を健康・福祉関連ブースにて提供した。

以 上

3 平成29年度事業報告の付属明細書

平成29年度事業報告については事業報告に記載のとおりであり、「社会福祉法施行規則」第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

4 理事会・評議員会の決議案件等

(1) 理事会決議案件等

理事会で決議した案件及び協議事項は次のとおりである。

議決年月日	審査の方法	議案の番号	議 案 名
H29. 5. 24	第115回理事会	報告事項 報告第1号 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 議案第8号 議案第9号	理事長及び常務理事の職務執行状況報告（平成28年度下半期） 専決処分について（白寿荘いぶき外壁等改修工事変更契約） 平成28年度事業報告及び決算の承認について 定款の一部変更について 役員等報酬規程の全部改正について 職員給与規則の一部改正について 平成29年度補正予算（第1号）について ななくさ育成園移転改築整備工事資金の借入について 役員を選任について 社会福祉充実計画について 定時評議員会の開催について
H29. 6. 12	H29年度第1回 みなし決議	議案第1号	理事長、副理事長及び常務理事の選定に係る提案について
H29. 7. 7	H29年度第2回 みなし決議	議案第1号	評議員選任候補者の推薦に係る提案について （構評議員の選任）
H29. 8. 15	H29年度第3回 みなし決議	議案第1号	工事請負契約の締結に係る提案について （ななくさ清光園空調設備改修工事）
H29. 11. 10	第116回理事会	報告事項 議案第1号 議案第2号 協議案第1号 協議案第2号 その他	理事長及び常務理事の職務執行状況報告（平成29年度上半期） 経理規則の一部改正について 平成29年度阪神福祉事業団補正予算（第2号）について 障害児入所施設「ななくさ学園」の新体系移行について ななくさ学園・清光園の給食業務委託について 台風21号に伴う被害と今後の対応について
H30. 1. 19	H29年度第4回 みなし決議	議案第1号	役員（理事）の選任について （小田理事の選任）
H30. 2. 16	第117回理事会	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 その他	旅費に関する規程の一部改正について 平成29年度補正予算（第3号）について 平成30年度事業計画・収入支出予算について ななくさ育成園移転改築整備工事資金の借入について 福祉サービス第三者評価結果について
H30. 3. 27	H29年度第5回 みなし決議	議案第1号	施設長等の選任について （ななくさ学園長、ななくさ清光園長、診療所事務長兼給食センター所長の選任）

(2) 評議員会決議案件等

ア 評議員会で決議した案件及び協議事項は次のとおりである。

議決年月日	審査の方法	議案の番号	議 案 名
H29. 6. 12	第31回評議員会 (定時評議員会)	報告第 1 号 議案第 1 号 議案第 2 号 議案第 3 号 議案第 4 号 議案第 5 号 議案第 6 号	平成 2 8 年度事業報告について 平成 2 8 年度決算の承認について 定款の一部変更について 役員等報酬規程の全部改正について ななくさ育成園移転改築整備工事資金の借入につ いて 役員を選任について 社会福祉充実計画について
H30. 1. 30	H29年度第1回 みなし決議	議案第 1 号	役員（理事）の選任について (小田理事の選任)

イ 評議員懇談会を開催し、次の事項を報告した。

開催日時	報告事項
H30. 3. 8	・平成 3 0 年度事業計画・予算について ・福祉サービス第三者評価結果について

(3) 監事監査の状況

平成29年5月12日、17日に平成28年度の本事業団の業務の執行状況及び収入支出決算等についての監査が、川本、小寺監事によって行われた。

5 職員の任免及び職員数の状況

(1) 施設別・職種別職員数一覧表について

平成30年3月31日

区分			課長等	課長補佐等	係長	事務員	保育士 支援員	看護師	栄養士	技術職員等	合計
事務局	予算 定数	正規	2	-	-	-	-	-	-	-	2
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	実配 置数	正規	2	-	-	-	-	-	-	-	2
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	1	1
学園	予算 定数	正規	1	-	1	1	17	1	-	-	21
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	2	1	16	1	1	-	22
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
厚生院	予算 定数	正規	1	-	3	2	19	1	1	3	30
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	3	1	19	1	1	3	29
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
育成園	予算 定数	正規	1	-	4	3	45	1	1	4	59
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	4	3	46	1	1	3	59
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	1	1
白寿荘	予算 定数	正規	1	-	4	2	60	6	1	4	78
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	5	2	59	5	1	4	77
		嘱託	-	-	-	-	1	-	-	1	2
新生園	予算 定数	正規	1	-	2	1	27	1	1	3	36
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	3	1	26	1	1	3	36
		嘱託	-	-	-	-	1	-	-	-	1
診療所	予算 定数	正規	1	-	1	2	-	2	-	2	8
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	-	2	-	2	-	2	7
		嘱託	-	-	-	-	-	1	-	-	1
清光園	予算 定数	正規	1	-	3	2	25	1	1	-	33
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配 置数	正規	1	-	2	2	26	1	1	-	33
		嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	予算 定数	正規	9	-	18	9	193	13	5	16	267
		嘱託	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	正規・嘱託計		9	-	18	9	193	14	5	17	265
	実配 置数	正規	9	-	19	12	192	12	6	15	265
		嘱託	-	-	-	-	2	1	-	3	6
正規・嘱託計		9	-	19	12	194	13	6	18	271	

(2) 職員数の推移について

平成30年4月1日

	平成29年4月1日 現在職員数	中途退職	中途採用	平成30年 3月末	3月末 退職	平成30年 4月採用	平成30年度4月現在 職員数
正規	268	△ 5	2	265	△ 11	21	275
嘱託	5		1	6			6
合計	273	△ 5	3	271	△ 11	21	281

6 施設別各月初日現在在籍者（児）数一覧表

施設名	定員	29年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	合計
ななくさ学園	人 45	人 46	人 43	人 44	人 44	人 44	人 46	人 46	人 45	人 45	人 45	人 44	人 45	人 537
ななくさ厚生院	100	108	107	107	105	108	107	106	106	106	106	108	109	1,283
ななくさ育成園	140	134	133	132	132	132	132	132	131	130	130	129	130	1,577
ななくさ白寿荘	165	173	175	180	173	169	170	171	173	170	164	166	167	2,051
ななくさ新生園	50	52	52	52	51	51	51	51	52	52	52	52	52	620
ななくさ清光園	60	62	62	62	62	62	62	61	60	61	61	61	61	737
小計	560	575	572	577	567	566	568	567	567	564	558	560	564	6,805

7 施設別入所者数の状況

単位：人

施設	学園	厚生院	育成園	白寿荘	新生園	清光園	合計
定数	45	100	140	165	50	60	560
月平均利用者数	44.8	106.9	131.4	170.9	51.7	61.4	567.1
利用率	99.6%	106.9%	93.9%	103.6%	103.4%	102.3%	101.3%

※ 月平均利用者数は、契約及び措置の平均人数。

8 在宅福祉サービスの実施状況

(1) 短期入所事業等

施設名	事業	年間延べ利用日数等
ななくさ学園	短期入所事業	691日
	日中一時支援事業	715人
ななくさ厚生院	一時入所事業	278日
ななくさ育成園	短期入所事業	446日
ななくさ白寿荘	短期入所事業	4,147日
	通所介護事業（デイサービス）	1,878人
ななくさ新生園	短期入所事業	777日
	日中一時支援事業	58人
ななくさ清光園	短期入所事業	2,107日
	日中一時支援事業	524人

(2) 相談支援事業

ア ななくさ清光園

事業	区分	年間延べ件数
相談支援事業 (備考1)	訪問	303件
	外来	106件
	電話・メール等	7,493件
計		7,902件

※サービス調整会議・ケースカンファレンス等 138件

備考1：相談支援事業の主な内容

- ① 自閉症・発達障がいや問題行動に対する生活支援、療育活動への導入支援
- ② 福祉サービスの利用、本人及び家族の不安解消・情緒安定に関する支援
- ③ 触法行為のケースや課題を抱えた家族等への支援他、地域生活全般に関する支援（健康、医療、権利擁護等）

イ ななくさ新生園（事業地域：西宮市）

事業	区分	年間延べ件数
相談支援事業 (備考2)	訪問	918件
	外来	134件
	電話・メール等	3,352件
計		4,404件

※サービス調整会議・ケースカンファレンス等259件

備考2：相談支援事業の主な内容

- ①福祉サービスの利用等に関する支援、社会参加、就労等に関する支援
- ②本人、家族の不安の解消・情緒安定に関する支援
- ③その他地域生活全般に関する相談（健康面、医療面等）

(3) 障害児等療育支援事業

ア ななくさ学園

事業	区分	年間延べ件数
障害児等療育支援事業 (備考3)	在宅支援訪問療育等指導事業	350件
	在宅支援外来療育等指導事業	465件
	施設支援一般指導事業	188件
計		1,003件

備考3：障害児等療育支援事業の主な内容

- ①自閉症・発達障がいや問題行動への療育指導、療育セッション及び家族・施設支援
- ②音楽療法、夏休み、冬休みの障がい児等の活動支援（サマースクール・ウインタースクールの開催）
- ③発達障がい連続講座（年3回実施）の開催（福祉関係者等延べ140人が参加）
- ④ペアレンツクラブ（年4回実施）の開催（保護者等延べ120人が参加）

イ ななくさ新生園

事業	区分	年間延べ件数
障害児等療育支援事業 (備考4)	在宅支援訪問療育等指導事業	193件
	在宅支援外来療育等指導事業	135件
	施設支援一般指導事業	21件
計		349件

備考4：障害児等療育支援事業の主な内容

- ①自閉症・発達障がいや問題行動への療育指導、療育セッション及び家族・施設支援
- ②音楽療法による集団療育活動（阪神福祉センターと近隣地域の2箇所で実施）

9 苦情解決の状況

阪神福祉事業団では、社会福祉法人阪神福祉事業団苦情解決事業実施要綱に基づき、各施設施設長を苦情解決責任者に、各施設副施設長を苦情受付担当者にそれぞれ任命し、また苦情解決の客観性、中立性を確保するために、阪神6市1町の民生児童委員7人の方を、第三者委員として委嘱している。また第三者委員に対して、半年に1回苦情解決事業の状況報告を行った。なお、平成29年3月1日以降の苦情解決事業の状況は次のとおりである。

(1) 阪神福祉事業団各施設の苦情受け付け状況

苦情解決実施要綱に基づく苦情受付は無し。

(2) 第三者委員の活動

	実施年月日	内 容	参加人数
第三者委員 報告会	平成29年 9月29日	平成28年度事業報告について 苦情解決の状況報告と意見交換	第三者委員 5人
第三者委員 報告会	平成30年 3月22日	平成30年度事業計画について 苦情解決の状況報告と意見交換	第三者委員 4人

(3) 第三者委員名簿（阪神福祉事業団共通）

平成30年3月31日現在

市 町	役 職 名	氏 名
尼崎市	民生児童委員協議会連合会副会長	池田 康昭
西宮市	民生委員・児童委員会理事	本田 三延
芦屋市	民生児童委員協議会副会長	東郷 明子
伊丹市	民生委員児童委員連合会副会長	小林 育子
宝塚市	民生委員・児童委員連合会常任理事	神谷 宏
川西市	民生委員児童委員協議会連合会理事	尾野上一夫
猪名川町	民生委員児童委員協議会会長	村山 興治